

あえてポルトオンパーツを中心に構成しているのは、そんな理由があったのだ。新しい魅力を創造するトライジャならではのモノ造りによって、新たな魅力に溢れたレポリューションマックス。今後多くの人の見る目が変わっていくのは間違いないだろう。

「基本的にすべて車検対応なので、ディーラーでも装着可能です。これで多くのディーラーに在庫されているレポリューションマックスが売れるようになれば、マーケット自体が活性化していくでしょう」と岡本さん。

あえてポルトオンパーツにこだわった最新カスタム
21年に登場した新しい水冷Vツイン、レポリューションマックス。スポーツスターSやナイトスター、パンアメリカに搭載されているが、未だに「ちょっと別の「ハレー」感」が強いのは否めない。これに伴ってアフターパーツがあまりリリースされてこなかったのも、カスタムがポビュラーにならない要因のひとつとなっている。

パンアメリカ

[PAN AMERICA]

角張った戦闘的なスタイルが魅力的なこの車両、なんとベースはオフロードモデルのパンアメリカなのだ。ガソリンタンクとシート&カウルで車両の雰囲気が大きく変わることがわかるはずだ。そのほかにもヘッドライトまわりは純正のスクリーン位置をずらして装着するなど、アイデア満載のカスタムで、まるで近未来のカフェレーサーのようなスタイルとなっているのだ。



金属加工担当
吉田誠さん

オフロードスタイルから
ネイキッドみたいに
仕上げました



当然マフラーはジギル&ハイドのパンアメリカ用。電子制御の音量可変機構が備わりユーロ5規制に対応。もちろん車検にも対応する

シート&カウルはサブフレームを一部加工することで装着可能。細身の戦闘的なスタイルに仕上げるのに役立つ

ラジエターの保護と装飾を兼ねたアイテムがラジエターコアガードだ。ステンレス製でラジエターをサビつきから守ってくれる

角張った形状のガソリンタンクはトップにメーターをマウントできる仕組み。ハンドルまわりをスッキリとさせるのに役立つ

あえてセパレートハンドルをチョイスし、ライディングポジションを大きく変更。メーターはタンク上にマウントしている

ヘッドライトは純正のままスクリーンを低い位置にマウントすることで、この戦闘的なスタイルを生み出している

Information



ホットロッド カスタムショーに出品!

つい先日のホットロッドカスタムショーにもトライジャはディーラー系ブースが密集するエリアでひととき目立つ巨大なブースを出展。もちろん今回紹介する2台もしっかりと展示されたのだ。詳細は次号で!

ナイトスター用 エアボックスカバーが新発売!

通常のガソリンタンクの位置はエアボックスとなるナイトスターのエアボックスカバーを3Dプリンターで製造。すでに試作の最終段階を終了しており、近日中に発売できるそうだ



お悩み
解決!

TRIJYAの モノ造り道場

大阪府柏原市にショップを構えるトライジャは、独自のカスタムのほか、カスタムパーツの開発にも力を入れている



TRIJYA HP



YouTube



instagram



Facebook

レポリューションマックス搭載のナイトスターとパンアメリカをベースにスタイリッシュなコンプリートカスタムが完成。この2台が生まれたことをきっかけにトライジャの新たなパーツが生み出されていく。

text/D.Katsumura 勝村大輔 photo/T.Tsurumi 鶴身健
問い合わせ/トライジャ TEL072-970-3110 <https://trijya.com/>

今回のお題 /

レポリューションマックスで 持続可能なフルカスタム



トライジャ BOSS
岡本佳之さん

気軽に
イメチェンできる
パーツを
開発しました

ナイトスター

[Nightster]

軽快なトラックスタイルに生まれ変わったナイトスター。スポーツスターをベースにしたトラックカスタムを彷彿させるシンプルかつ軽快な雰囲気が魅力だ。何と言ってもエアボックスカバーや専用のシート&カウルによって、外観は大きくイメージチェンジを果たしている。実はエアボックスカバーは完全にポルトオン、シート&カウルもシートフレーム後端の一部カットのみで装着が可能となっているのだ。



マフラーは同社が取り扱うナイトスター用のジギル&ハイドを装着。もちろん車検対応なのは言うまでもないだろう

トラックを彷彿させるシート&カウルはフレームの一部カットする必要があるが、簡単に装着することができるアイテムだ

エアボックスカバーは3Dプリンターで作成されており、立体的なフレームなどの複雑な形状も再現が可能となっている

ステンレス製のラジエターコアガードはすでにリリースされている商品。コアのガードはもちろん、ドレスアップにも貢献

ハンドルはストレートハンドルに変更。純正のメーターはそのまま使用しているが、全体的にハンドルまわりはすっきりとした印象に

ヘッドライトまわりは純正のライトカウルを外して純正ヘッドライトのみにしたうえで、エポ時代のパイザーを装着している